

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度第2回行財政改革推進委員会
開 催 日 時	平成26年8月30日(土) 13時00分から15時10分まで
開 催 場 所	吉川市役所 204会議室
出 席 委 員 氏 名	大塚祚保委員長、間宮玲子副委員長、伊藤博章委員
欠 席 委 員 氏 名	なし
担当課職員職氏名	政策室副室長 中村詠子、政策室行政改革担当主査 櫻井敬雄 政策室行政改革担当主任 松井 勉
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公開又は非公開の別	1 開会 2 あいさつ 3 議事 第4次よしかわ行財政改革大綱及び推進プラン策定について 「第4次よしかわ行財政改革大綱」体系の検討 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> 第5次吉川市総合振興計画の構成と期間 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span> 4 その他 5 閉会 すべて公開
非 公 開 の 理 由	なし
傍 聴 者 の 数	0名
会 議 資 料 の 名 称	次第、座席表、議案書、参考資料
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	大塚委員長、伊藤委員
そ の 他 の 必 要 事 項	なし

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
1 開 会 司会（櫻井主査）	<p>—————《開 会》—————</p> <p>ただ今より、平成26年度第2回行財政改革推進委員会を開会する。</p>
大塚委員長	<p>—————《あいさつ》—————</p> <p>事前に事務局から多くの資料が届いたが、本日も資料を基に、忌憚のない議論をよろしくお願い申し上げます。</p>
司会（櫻井主査）	<p>—————《議事審議》—————</p> <p>それでは、これより議事に入る。議事の進行については、大塚委員長にお願いする。</p>
大塚委員長	<p>それでは、議事「第4次よしかわ行財政改革大綱及び推進プラン策定について」事務局より説明をお願いする。</p>
松井主任	<p>資料①と資料②について説明。主に、行財政改革大綱と総合振興計画との関係、今までの当市の行財政改革大綱の体系の策定経過、他自治体の行財政改革体系について説明。</p>
大塚委員長	<p>行財政改革大綱と総合振興計画との関係について事務局からの説明があった。今の説明と事前に配布された資料について、何かご意見やご質問はあるか。また、行財政改革大綱の体系の検討について何か意見はあるか。</p>
大塚委員長	<p>行財政改革大綱と総合振興計画との位置づけを整理する必要がある。</p>
伊藤委員	<p>前期基本計画と後期基本計画は5年ごとになっているが、前期と後期とで計画内容が大きく変わることはあるのか。</p>
中村副室長	<p>基本構想は変わらないため、大きく変わることはない。</p>
伊藤委員	<p>行財政改革大綱と総合振興計画とをリンクさせて考えていくとなると時期がずれるが、一体として考えていくことはできるのか。特に、質の向上を考えるのであれば、なおさら一致させる方が望ましいと思うが。</p>
松井主任	<p>確かに行財政改革大綱と総合振興計画とをリンクさせることにより、行財政改革で生まれた財源を総合振興計画の事業に充て</p>

	<p>ることができるため、一体として考えられやすい。しかし、今までの行財政改革は、財源確保の意味合いが強く、これまでは平成17年度から平成21年度の国による集中改革プランの5か年の流れで、その後、平成22年度から平成26年度の5か年と推移してきた経過があるため、第4次よしかわ行財政改革大綱についても、5か年の計画を予定している。しかし、総合振興計画との計画期間を一致させるのであれば、2か年延長をすることは可能と考える。</p>
伊藤委員	<p>サービスの質の向上を考えると期間を合わせた方が良い。また、社会情勢を反映させなければ行革と言えない。社会情勢を考えると期間が長すぎてもいけない。</p>
大塚委員長	<p>第1次大綱では3つの方針を掲げている。第2次と3次では、2つの基本理念の基に5つの柱がある。今回議論していくのは、今までの柱を活用していくのか、それとも、取り組みが進んでいないものを残して、新たな柱を作ることなのか。</p>
松井主任	<p>今までの柱を残しても良いし、全く新たなものを柱として作成しても良いと考える。</p>
大塚委員長	<p>第3次大綱の進み具合はどうなのか。</p>
中村副室長	<p>今までの実績については、前回会議資料でお示した「新行財政改革推進プラン進行管理シート（平成25年度実績）」に掲載されており、アウトソーシングなど達成できていないものもある。</p>
間宮副委員長	<p>今回与えられた資料のみで次期大綱を考えていくのは、なかなか難しいところがある。ただ、総合振興計画は現にあるもので、そのなかで行財政改革は総合振興計画を着実に推進していくものであるのであれば、市民目線で言うと、分かりやすいもの、判断しやすいものを作っていきたい。資料1の4（3）課題設定型や（4）重点項目設定型のようなもののように、取り組みを重点、強調していけば分かりやすいと思う。</p>
大塚委員長	<p>総合振興計画に関する取り組みをどうするかは経営戦略会議で決定していけばいいと思う。その進行管理を別の角度から行財政改革推進委員会で見えていく必要がある。</p>

中村副室長	市民目線で分かりやすくするに、どんな行革を行うのか、何が できるか、どう体系作るか。どの切り口で進めていくかという事 を今回決めていただきたい。
伊藤委員	行財政改革大綱と総合振興計画の切り口を一緒にした方が分 かりやすい。評価も行財政改革と総合振興計画とで違う方法でや っていくと職員も分かりにくいと思う。次のステップにも進みや すい。
中村副室長	事務局としても総合振興計画の柱に沿ったものに合わせた方 が分かりやすいと考えている。
伊藤委員	選択と集中をこれから進めていくうえで、行財政改革推進委員 から別の視点で意見を述べることができればと思う。
中村副室長	今回は体系を決めていく。体系が決まってくれば、それに沿っ た事業を、各課で挙げていくこととなる。第2次、3次大綱では、 どちらかという（3）課題設定型で財源確保が主だった。
伊藤委員	例えば、市民意識調査のなかで、市の足りない部分が結果とし て出ているため、それを踏まえた施策を挙げていっても良いと思 う。
大塚委員長	行革のベースは効率化やコストダウンというのが前提にある。 拡大していく要素をいかにチェックしていくかが大事である。行 財政改革推進委員会で1つ1つの事業に対して、意見を言っても良 いのか。それは総合振興計画の進行管理ではないのか。
伊藤委員	事務事業評価シートを見ていると内部評価だから、行財政改革 推進委員会から指摘できることがあると思う。結果として問題解 決につながる。
松井主任	行財政改革推進プランの進行管理のシートに事務事業評価シ ートを活用しても良いと思う。現在、内部評価のみであるため、 活用することによって外部の評価も当委員会を通じて含まれて いくことになる。
大塚委員長	例えば、（5）経営指針型になった場合、「市民主役」などの項

	目はどのようになるのだろうか。
伊藤委員	例えば、総合振興計画の事業に基づいてできるのであれば、重点テーマから取り組むということもできる。
間宮副委員長	重点テーマは、まちづくりの基本理念とリンクしているのか。
中村副室長	重点テーマは、まちづくりの目標から、ピックアップした事業であるからリンクしていることになる。ただし、重点テーマは前期基本計画でのテーマであるため、後期基本計画では変わる恐れはある。
松井主任	現在、策定しようとしている第4次よしかわ行財政改革大綱は、前期と後期の基本計画をまたぐ計画期間となる。
伊藤委員	ただ、重点テーマを見ていると、2、3年で解決できるようなものではなく、重いテーマだと思う。
中村副室長	先ほど総合振興計画の切り口と一緒にしたらという意見があったが、基本理念を中心に考えるのであれば、重点テーマの全てが含まれていくことになる。
大塚委員長	行財政改革の進行管理と総合振興計画の進行管理が重なる可能性があると思う。行財政改革推進委員会の役割はどうなのか。
中村副室長	市民目線で行財政改革の視点での評価として行えばいいと思う。
大塚委員長	「市民主役」と「健全財政」という言葉を簡単にははずしたくない。特に、「健全財政」は、行政改革ではキーとなる言葉であるから、変えたりはしない方が良く思う。
櫻井主査	「健全財政」という言葉を、全ての取り組みの土台という型もできると思う。
伊藤委員	(2) 総合振興計画型に(5) 経営指針型をプラスするというところがいいと思う。
間宮副委員長	見やすくするなら(2) 総合振興計画型が分かりやすいと思う。

	<p>ただ、「市民主役」と「健全財政」も必要であると思う。かみ合ったものができればいいと思う。</p>
伊藤委員	<p>「健全財政」は非常に重要なテーマであることは確かである。</p>
大塚委員長	<p>行革を進めるうえで、健全財政、効率化、簡素化といった用語はまさに行革である。まちづくりの基本理念といった言葉は、総合振興計画の範疇であり、その理念に沿って各課が事業を進めるものであると思う。今後はますます財政的に厳しくなる。健全化の取り組みは続けなければならない。</p>
中村副室長	<p>今後、行革に関する事業が各課から出てくると思う。その事業を振り分ける時に、まちづくりの基本理念ごとに分けることとなる。</p>
大塚委員長	<p>行革は人口減少問題など、社会情勢に合わせた弾力的な対応をしていくべきである。</p>
間宮副委員長	<p>今までの議論をベースに事務局から案を示していただけないか。</p>
中村副室長	<p>次回までに事務局案を作って示していきたい。</p>
大塚委員長	<p>では、今回の委員会はこれまでとし、次回は、事務局案を示していただきたい。次回は、9月14日（日）の午前10時に開催とする。</p>
委員	<p>（委員了解）</p>
司会（櫻井主査）	<p style="text-align: center;">————— 《閉 会》 —————</p> <p>以上で本日の委員会の議事を終了とする。これをもって、平成26年度第2回行財政改革推進委員会を閉会する。</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 平成26年9月8日</p> <p style="text-align: center;">署名委員（大塚委員長 自署）      署名委員（伊藤委員 自署）</p>	